

保護猫に命のリレー

市民協働
推進事業

もりおかニャンとも幸せプロジェクト

「もりおかニャンとも幸せプロジェクト」の説明会が21日、盛岡市本宮の盛岡タカヤアリーナで開かれた。盛岡市内や近郊から15人が参加。プロジェクトは盛岡市の市民協働推進事業に採択され、市保健所とNPO法人もりねこ（工藤幸枝代表）が開始した。保健所が保護した猫の一時預かりボランティア支援事業。説明会では市保健所生活衛生課の松舘恵子獣医主査が保健所での動物の保護状況を紹介し、もりねこの工藤代表がプロジェクトの詳細を紹介し、協力を呼び掛けた。

もりねこニャンとも幸せプロジェクトは、（月齢、体調良好）になるまでボランティアが自宅で世話をする。その間の医療費やフードなどの必要物品はもりねこから支給される。ボランティアは、譲渡の時期がきたら、譲渡会を開くなど保健所で新しい飼い主を募集する。飼い主が見つからない猫や特別なケアが必要な猫はもりねこで継続して世話

する。という内容。保健所で保護された猫は、健康状態の確認や応急治療をした後、感染症への対策、必要に応じて看護や哺乳をして市民への譲渡を目指している。これまでは哺乳や看護が必要な猫は職員が自宅で世話をしていた。松舘獣医主査は、多頭飼育崩壊から保護した猫を職員が自宅に連れ帰って世話をした事例を紹介し、「最初はおびえて

固まっていた猫が、職員宅2日目で既に人懐っこくなった。個人宅に行くことストレスが違ったと思った」と振り返る。

そこから家庭での一時預かりで救える猫が増えると考え、一時預かりボランティア制度を作れないかと考えた。同じように猫たちの世話をしていたもりねこからの提案も受け、プロジェクトを立案したという。

説明会ではボランティア宅で預かり中の猫が体調を崩した際の医療費の請求方法も説明。感染症予防や毎日の世話の仕方、離乳前の子猫に哺乳するミルクボランティアについても詳細を伝えた。

ミルクボランティアは夜間の哺乳や保温も必要で苦勞も多いが、希望する人は指導を受けられることもできる。工藤代表は「大変な時期はもりねこでもサポートする。数日だけというだけでもいいし、休みたいときに別の人にリレーすることもできる

るので、ぜひチャレンジしてみたい」と呼び掛けた。松舘獣医主査は「全部を背負うわけではなく、自分にできることだけでもいいので参加していただき、命をつなぐ力を貸してもらいたい。市民と一緒に進めていきたい」と話す。工藤代表は「預かれる人が多いと猫たちも救われる。まずは10人くらいを目指していて、リレーしながらやっていけたらいいのかな」と思う」と語った。保護猫や譲渡についての情報は、市保健所のホームページやもりねこフェイスブックページなどで随時発信される予定。



説明会では保健所が盛岡市内で保護した猫（推定生後3カ月）との対面もあった

盛岡タイムズ 2017年6月24日(土)